

「子どもが作る弁当の日」という取り組みが全国の小中学校に広がっています。年に数回あるその日の昼食時の教室は、自分で作った弁当を友だちと見せ合いながら、得意げな顔をして食べる子どもの姿であふれるそうです。

買い物から片付けまで苦労しながら自分の力だけで弁当を作ることで、自立心が育つことや家族への感謝の気持ちが生まれるなど、さまざまな効果があるようです。

その話を、普段は料理の手伝いなどほとんどしない我が家の小学生の娘に紹介すると、思いがけず自分も弁当を作りたいと言い出しました。そこで、ある休日を我が家の「子どもが作る弁当の日」に設定して、娘に家族みんなの弁当を作ってもらいました。

「大人は手伝わない」というのが弁当の日のルールなのですが、これがなかなか難しいものです。

包丁を持つ手つきやフライパンの使い方がぎこちなくて怪我をしないか心配になり、ついつい手伝いそうになってしまいました。それでも心配性の親を横目に、娘は自分でできると言いはり、時間はかかりましたが見事に弁当を作り上

げました。

その日の昼食時には家族からの「上手やね」「おいしい」「また作ってね」という褒め言葉のシャワーをたくさん受けて、娘は満面の笑顔を見せていました。そして自信をつけた娘は、時々自分から進んで料理の手伝いをするようになりました。

人の役に立つこと、頑張ったことを認めてもらうことは大きな自信につながることを改めて分かった子どもの成長を喜ぶとともに、今までこのような経験をあまりさせていなかった我が家の子育てを反省しました。

子どもの可能性を信じて大人があたたかく見守ることで、子どもが大きな自信をつけることができるようです。子どもが主人公になるこのような機会がどんどん増えて、子ども達の笑顔がもっと広がっていただければいいと感じました。

「自信をつけること」

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569